

- 70.生ける者に警告を与え、また不信心な者に対しては御言葉が下される。
- 71.われが手ずからかれらのために創った家畜をかれらに所有させているのを見ないのか。
- 72.われは、それをかれら（の用）に服させた。それで、かれらはこれに乗り、そして食べる。
- 73.またかれらは（その外にも）いろいろそれを利用し、また飲・ものを得る。それでもかれらは感謝しないのか。
- 74.かれらは、アッラーの外に邪神を選び何とか助けられようとする。
- 75.それら（邪神たち）は、かれらを助ける力はなく、寧ろかれらの方が邪神を守るため軍備を整えている始末。
- 76.あなたはかれらの言うことで、悲しんではならない。本当にわれは、かれらの隠すことも現わすことも知っている。
- 77.人間は考えないのか。われは一精滴からかれを創ったのではないか。それなのに見よ、かれは公然と齒向っている。
- 78.またかれは、われに準えるものを引合いに出して、自分の創造を忘れ、言う。「誰が、朽ち果てた骨を生き返らせましょうか。」
- 79.言ってやるがいい。「最初に御創りになった方が、かれらを生き返らせる。かれは凡ての被造物を知り尽くしておられる。
- 80.緑の木から、あなたがたのために火を造られたのもかれであり、だからこそあなたがたはそれによって燃やす。」
- 81.天と地を創造なされたかれが、これに類するものを創り得ないであろうか。いや、かれは最高の創造者であり、全知であられる。
- 82.何かを望まれると、かれが「有れ。」と御命じになれば、即ち有る。
- 83.かれにこそ凡ての称讃あれ。その御手で万有を統御なされる御方、あなたがたはかれの御許に帰されるのである。

## SURA 37.整列者章〔アッ・サーッフアート〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.整然と列をなす者たちにおいて。
- 2.駆り立て追う者において。
- 3.また訓戒（のグルアーン）を読・聞かせる者において、誓う。
- 4.本当にあなたがたの神は、唯一の主である。
- 5.天と地、そしてその間にある凡てのものの主、また日の出を司どる主である。

- 6.本当にわれは、星々で下層の天を飾り、
- 7.（アッラーの命令に）逆らう悪魔にたいする守りとした。
- 8.かれらは八方から撃たれ、最高の会議を盗・聞くことは出来ない。
- 9.撃退されて、かれらは永久の懲罰を受ける。
- 10.盗聴し得た者があっても、白熱の炎が追跡する。
- 11.かれら（マッカの多神教徒）に問え。「かれらとわれの創った者（天使）のどちらが強く創られているか。」われはもともと、粘りのある泥でかれらを創ったのである。
- 12.あなたは感嘆しているというのに、かれらは嘲笑する。
- 13.警告されても、かれらは警告を受け入れない。
- 14.またかれらは、印を見ても嘲笑するばかり。
- 15.そしてかれらは言う。「これは明らかに魔術にちがいません。
- 16.わたしたちが死んで土と骨になってから、（また）呼び起こされましようか。
- 17.遠い祖先たちも（一緒にですか）と言う。
- 18.言ってやるがいい。「その通り。あなたがたは卑しめられるのである。」
- 19.それは只一声の叫びである。その時かれらは（恐ろしい光景を）目の当たりに見て、
- 20.「ああ情けない、これが審判の日ですか。」と言う。
- 21.「これはあなたがたが信じなかった区分の日である。
- 22.不義を行っていた者たち、その妻たち、またかれらがアッラーを差し置いて拝していたものたちを集めなさい。
- 23.かれらを火獄への道に連れて行け。
- 24.いや、かれらを待たせておけ。かれらに尋ねることがある。
- 25.あなたがたが助け合わないのはどうしたことか。」
- 26.いや、今日ばかりは、かれらも（審判に）服する。
- 27.かれらは栗いに近づき尋ね合う。
- 28.一方は言う。「本当にあなたがたは、右から来ました。」
- 29.すると他方は言う。「いや、あなたがたは、（もともと）信者ではありませんでした。
- 30.また、わたしたちはあなたがたに押し付ける権威もありませんでした。それにあなたがたは反逆の徒でした。

- 31.それで主の御言葉が、わたしたちに実証された今、わたしたちは、（懲罰を）味わわねばならない。
- 32.わたしたちはあなたがたを迷わせたが、わたしたち自身も迷っていたのです。」
- 33.こうしてその日、かれらは、（凡て）共に懲罰を受ける。
- 34.本当にわれはこのように罪を犯した者を処分する。
- 35.かれらは、「アッラーの外に神はありません。」と告げられると、いつも高慢になった。
- 36.そして、「気狂い詩人のために、わたしたちの神々を捨ててなるものですか。」と言っていた。
- 37.いや、かれは真理を(お?)して、（かれ以前の）預言者たち（の啓典）を確認する者である。
- 38.あなたがたは、必ず痛ましい懲罰を味わうであろう。
- 39.どうせ皆あなたがたが行ったことの報いである。
- 40.だがアッラーの忠誠なしもべたちは、別である。
- 41.それらの者には、定め之恩恵があり、
- 42.（喜ばしい）果実、そして栄誉が（授けられ）、
- 43.至福の樂園の中で、
- 44.寢床の上で向かい合う。
- 45.清い泉からくんだ杯は、かれらにゆきわたり、
- 46.真白（な美酒は）、飲む者に心地よい甘さ。
- 47.これは、頭痛を催さず、酔わせもしない。
- 48.またかれらの側には、伏し目がちな大きい目（の乙女）がいる。
- 49.かの女らは、注意深く守られている卵のよう。
- 50.やがてかれらは、栗いに近づき尋ね合う。
- 51.かれらの一人が、口を切って言う。「わたしに一人の親しい友がいました。
- 52.かれは言っていた。『あなたまで（復活の日を）信じているのですか。
- 53.わたしたちが死んで土と骨になってから、本当に審判されるのでしょうか。』」
- 54.また言った。「まあ皆さん見下ろして・なさい。」
- 55.そこでかれが見下ろすと、火獄の只中にかれの姿が見えた。
- 56.かれは言った。「アッラーにかけて、あなたはもう少しでわたしを破滅させるところでした。
- 。

- 57.もし主の御恵・がなかったならば、わたしは必ず引き立てられる者の中にいたでしょう。」
- 58.「わたしたち（楽園の仲間）は、最初の死だけでまた、
- 59.死ぬことはないのですか。また、わたしたちが、懲罰を受けることはないのでしょうか。」
- 60.「そうであるならこれは、至上の幸福の成就です。
- 61.このようなことのために、行動し努力すべきです。」
- 62.それは結構な歓待ではないか。それともザクームの木（をとるの）か。
- 63.われはこの木を不義を行う者への試・として、用意したのである。
- 64.それは地獄の底に生える木で、
- 65.その実は、悪魔の頭のようなものである。
- 66.かれらはこれを食べて、腹はそれでいっぱい。
- 67.それから上に沸騰する湯を注ぎ足され、
- 68.それから火獄に帰り着くのである。
- 69.かれらは祖先の迷っていたのを認めながらも、
- 70.その足跡を急いで（歩いて）いたのである。
- 71.昔の多くの祖先たちも、確かに迷っていた。
- 72.だがわれはかれらに、必ず警告者を遣わした。
- 73.見るがいい。警告されても無視した者の最後が、どうであったかを。
- 74.（だが）アッラーの忠誠なしもべたちは、別である。
- 75.且つてヌーフはわれに哀願した。われは最も優れた応答者である。
- 76.われは、かれとその家族を大難から救った。
- 77.そしてかれの子孫を生き残らせた。
- 78.また後の幾世代に渡り、かれのために（祝福の言葉を）留めた。
- 79.「万物（人間、天使、ジン）の中で特にヌーフの上に平安あれ。」と（われからの有難い御言葉を）。
- 80.われはこのように、正しい行いの者に報いる。
- 81.本当にかれは、信心深いわがしもべであった。
- 82.それからわれはその外の者を、溺れさせた。
- 83.またかれの後継者の中にはイブラーヒームがいた。

- 84.かれが純正な心をもってかれの主の許にやって来た折に、
- 85.自分の父やその一族に向かって言った。「あなたがたの崇拝するものは何ですか。
- 86.アッラーを差し置いて瞞しの神々を御望・なのですか。
- 87.いったい、万有の主に就いて、あなたがたはどのように考えておいでなのですか。」
- 88.その時かれは諸星を一目見て、
- 89.言った。「わたしは、本当に（心が）痛む。」
- 90.人々はかれに背を向けて去った。
- 91.その時かれ（イブラーヒーム）は、かれらの神々に向かって言った。「あなたがたは食べないのですか。
- 92.あなたがたは、どうしてもものを言わないのですか。」
- 93.そこでかれは、かれら（偶像）を右手で打った。
- 94.その時人びとは、慌ててかれの処へやって来た。
- 95.するとかれは言った。「あなたがたは、（自分で）刻んだものを崇拝するのですか。
- 96.本当にアッラーは、あなたがたを創り、またあなたがたが、造るものをも（創られる）。」
- 97.人びとは言った。「かれ（イブラーヒーム）のために炉を築き、燃え盛る火の中に投げ込・なさい。」
- 98.このようにかれに策謀を巡らせようとしたが、われはかれらを散々な目に会わせた。
- 99.かれは言った。「わたしは主の御許に行こう。必ずわたしを導かれるであろう。
- 100.主よ、正しい人物になるような（息子）を、わたしに御授け下さい。」
- 101.それでわれは、優しい思いやりのある男児を（授けるといふ）昔報を伝えた。
- 102.（この子が）かれと共に働く年頃になった時、かれは言った。「息子よ、わたしはあなたを犠牲に捧げる夢を見ました。さあ、あなたはどうか考えるのですか。」かれは（答えて）言った。「父よ、あなたが命じられたようにして下さい。もしアッラーが御望・ならば、わたしが耐え忍ぶことが御分りでしょう。」
- 103.そこでかれら両人は（命令に）服して、かれ（子供）が額を（地に付け）うつ伏せになった時、
- 104.われは告げた。「イブラーヒームよ。
- 105.あなたは確かにあの夢を實踐した。本当にわれは、このように正しい行いをする者に報いる。
- 106.これは明らかに試・であった。」

- 107.われは大きな犠牲でかれを贖い、
- 108.末永くかれのために（この祝福を）留めた。
- 109.「イブラーヒームに平安あれ。」（と言って）。
- 110.このようにわれは、正しい行いをする者に報いる。
- 111.本当にかれは、わが信心深いしもべであった。
- 112.またわれは正しい人物、預言者イスハークの（誕生の）吉報をかれに伝えた。
- 113.そしてわれは、かれとイスハークを祝福した。だがかれらの子孫の中には正しい行いをする者もあり、また明らかに自らを損なう者もあった。
- 114.われは、ムーサーとハールーンに恩恵を施した。
- 115.またかれら兩人、そしてその民を大きな災難から救い出し、
- 116.われが助けたためにかれらは（その困難を）克服することが出来た。
- 117.なおわれは、兩人に（事理を）明瞭にさせる啓典を授け、
- 118.かれらを正しい道に導いた。
- 119.われは後の幾世代に渡り、かれらのために（この祝福を）留めた。
- 120.「ムーサーとハールーンに平安あれ。」（と言って）。
- 121.このようにわれは、正しい行いをする者に報いる。
- 122.本当にかれら兩人は信心深いわがしもべであった。
- 123.本当にイルヤースも、使徒であった。
- 124.かれがその民にこう言った時を思え。「あなたがたは主を畏れないのですか。
- 125.あなたがたはバアルに祈って、最高の創造主（アッラー）を見捨てるのですか。
- 126.アッラーこそあなたがたの主、昔の父祖たちの主ではないのですか。」
- 127.だがかれらはかれ（イルヤース）を嘘付きであるとした。だから必ず（処罰に）臨むであろう。
- 128.（かれらの中）敬虔な、アッラーのしもべは別である。
- 129.われは後の幾世代に渡り、かれのために（この祝福を）留めた。
- 130.「イルヤースに平安あれ。」（と言って）。
- 131.このようにわれは、正しい行いをする者に報いる。
- 132.本当にかれは信心深いわがしもべであった。
- 133.ルートも（われが）遣わした者であった。

- 134.見よ、われはかれとその家族の凡てを救った。
- 135.後に残る者の中にいた、老婆の外は。
- 136.そうしてわれは、外の者を滅ぼしてしまった。
- 137.あなたがたはかれらの（遺跡の）傍らを、昼
- 138.夜通っている。あなたがたはそれでも悟らないのか。
- 139.本当にユースも、使徒であった。
- 140.かれが（荷を）満載した舟に（乗って）逃れた時、
- 141.かれは籤を引いて、負けてしまった。
- 142.（そして海に投げ込まれると）大魚に丸呑・にされ、かれは自責の念にかられた。
- 143.かれが（悔悟して主を）讃えなかったならば、
- 144.かれら（人びと）が（復活して）起こされる日まで、必ずかれは魚の腹の中に留まったであろう
- 145.だがわれは、荒れ果てた（蟹辺）にかれを打ち上げた。かれは病んでいた。
- 146.われはかれの上に、1本のヒサゴ木を繁らせ（影を作った）。
- 147.そして10万人、またはそれ以上（の民）にかれを遣わした。
- 148.かれらが信仰に入ったので、われはしばし現世の享樂を許した。
- 149.さてかれらに問え。「あなたがたの主は娘を持ち、かれら（マッカの多神教徒）は息子を持つというのか。
- 150.それともかれらは、われが天使たちを女に創ったと証言するのか。」
- 151.見よ、かれらの言うことは作りごとである。
- 152.アッラーが子を生まれるとは、かれらも嘘付きの徒である。
- 153.かれは息子よりも、娘を選ばれるとするのか。
- 154.どうしたのか。あなたがたはどう判断するのか。
- 155.あなたがたはなお訓戒を受け入れないのか。
- 156.それともあなたがたに明瞭な権能があるのか。
- 157.あなたがたのいうことが真実ならば、あなたがたの啓典を出して・なさい。
- 158.かれらは、かれとジンは親類であるといっている。だがジンは自分たちが（懲罰に）臨むことをよく知っている。
- 159.アッラーに讃えあれ。（かれは）かれらが配するものから（超絶なされる）。

- 160.だが謙虚に奉仕するアッラーのしもべたちは、別である。
- 161.だがあなたがたにしても、あなたがたが崇拜するものでも、
- 162.かれに反抗して（信者たちを）誘惑することが出来ようか。
- 163.燃え盛る火で、焼かれる者は別にして。
- 164.（整列している者たちが言う。）「わたしたちは各々定め部署を持っています。
- 165.わたしたちは（奉仕のため）整列して、
- 166.慎んで（アッラーを）讃え唱念します。」
- 167.また、かれらはいつも言っていた。
- 168.「もしわたしたちが、昔から訓戒を持っていたなら、
- 169.わたしたちも、確かにアッラーの謙虚なしもべであったでしょう。」
- 170.ところが（実際にクルアーンが与えられれば）それを拒否する。だが間もなくかれらは知るであろう。
- 171.確かにわれの言葉は、わが遣わしたしもべたちに既に下されている。
- 172.かれらは、必ず助けられよう。
- 173.本当にわれの軍勢は、必ず勝利を得るのである。
- 174.あなた（ムハンマド）はかれらから暫くの間遠ざかって、
- 175.かれらを監視しなさい。やがて、かれらは目覚めるであろう。
- 176.だがかれらは、わが懲罰を急ぎ求めている。
- 177.だがそれが実際にかれらに下ると、それまで警告を受けているだけに寝覚めの悪い朝となろう。
- 178.それであなたはかれらから暫くの間遠ざかって、
- 179.かれらを監視しなさい。やがて、かれらも目覚めるであろう。
- 180.あなたの主、威徳の主、かれらが配するものから（超絶なされる）主に讃えあれ。
- 181.使徒たちに平安あれ。
- 182.万有の主、アッラーに讃えあれ。

## SURA 38.サード章

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.サード。訓戒に満ちたクルアーンにかけて。